

臨床研究等の情報公開

研究課題名	外来がん薬物療法を受けている再発・転移がん患者の「生きる力」を促進する対話型外来看護支援モデルの構築
研究機関	青森県立保健大学大学院健康科学研究科健康科学専攻博士後期課程
研究内容	本研究は、研究者が作成した「外来がん薬物療法を受けている再発・転移がん患者の『生きる力』を促進する対話型外来看護支援モデル（以下：対話型外来看護支援モデル）」を、外来がん薬物療法を受けている患者さまに適用する探索的介入研究です。本モデルの実践可能性および初期的有効性を検証することを目的としています。 「対話型外来看護支援モデル」とは、外来看護師との対話を通して、患者さまが自身の気持ちや考えを整理し、自分らしく前向きに過ごす力（＝生きる力）を育むことを支援する看護実践です。 本研究では、この支援モデルがどのように役立つのか、また支援を受けた患者さまにどのような心理的・行動的变化が見られるのかを明らかにしたいと考えています。 本研究を通して、患者さまが少しでも安心して、自分らしい毎日を過ごせるような外来看護支援の在り方を検討してまいります。
実施期間	研究倫理委員会承認日～令和8年3月31日
対象者	本研究は、青森市民病院の外来がん化学療法室で、がんの再発または転移があり、がん薬物療法を受けている患者さま、10名程度を予定しています。
実施方法	本モデルの実施では、研究者が外来看護師として患者と対話を行い、療養生活や心身の変化、思いを語る場を設ける。研究者は、患者の語りに耳を傾け、その人らしさや強みに焦点を当てながら、自己の価値観や内的資源への気づきを促す支援を行う。 対話的支援は外来受診時に4回実施し、1回あたり約20～30分を目安とする。介入前後に質問紙および短時間の面接を行い、心理的適応や生活の質の変化を評価する。体調や心理状態に配慮し、無理のない範囲で実施する。
参加撤回の自由	研究参加については、文書および口頭で十分に説明し、同意書を用いて文書による同意を得る。参加は自由意思に基づくものであり、いつでも撤回できることを説明する。 同意撤回書についても、あらかじめ文書および口頭で内容を説明し、撤回を希望する場合には同意撤回書を用いて手続きを行う。撤回によって不利益が生じることはなく、希望に応じて収集済みデータを破棄する。

問合せ先	研究者：青森県立保健大学大学院健康科学研究科 高屋敷 麻理子 連絡先：〒030-8505 青森市大字浜館字間瀬 58-1 青森県立保健大学健康科学部看護学科 E-mail：2192001@ms.auhw.ac.jp
------	--